

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①授業や探究活動を通じて高いレベルの学力（思考力・判断力・表現力）と課題解決力を育成するとともに、生徒の進路希望を保障する教育課程を編成する。 ②生徒主体の行事や活動を活性化させ、協働性やリーダーシップを育成する。	①確かな学力をつけるために、思考を言語化し、主体的に学習活動する生徒が増えるよう、教科等の学習支援に取り組む。 ②生徒会活動や、学校行事において、生徒が主体的に取り組めるような仕組みづくりに努める。生徒が他者と協働し、互いにリーダー性を育めるよう支援を行う。	①前期の「生徒による授業評価」を各教科で分析し、主体的な学習活動をする生徒を増やすための要点を共有する。その結果をシートにまとめ、後期の授業力向上に活かす。 ①後期の「生徒による授業評価」を前期の結果と比較し、再度各教科で分析を行い、その結果をシートにまとめ、次年度に活かす。 ②各行事や生徒会活動において生徒の意見を反映させた充実した取組みとなるよう支援する。 ②文化祭では、執行部を特定の部活ではなく3学年全体がリーダーシップを発揮できる体制とするなど持続可能な仕組みづくりを行う。	①後期の「生徒による授業評価」の質問項目すべてにおいて、「共通科目全体」「各教科」それぞれで、前期の結果を上回ったか。 ②魅力と特色ある県立学校づくりアンケートでの学校行事・生徒会活動の充実に関する質問に、あてはまる・どちらかというあてはまると回答した割合が8割を超えたか。 ②文化祭での新たな執行部組織が機能し、生徒が主体的に活動できたか。					
2	生徒指導・支援	①部活動を活性化させるとともに学習との両立を図る。 ②社会の構成者として高い規範意識や他者を思いやる心を育てるとともに、個に応じた支援体制を構築する。	①部活動の計画的な実施を促進し、生徒が部活動と学習の両立を図れるよう努める。 ②生徒の抱える諸課題を把握するよう努め、適切な支援・指導方針を立て、共有する範囲を適切に定めながら、全体として状況の改善に努める。	①年度当初に各部活が、年間活動計画表シートを作成し、休業日を計画的に取得できるよう努める。 ②生徒の課題を分析し、支援や指導のねらいや方針を明確化する。また、それらはケース会議等を通じ、関係職員やSC・SSWと共有して組織的な対応を図る。	①各部活が年間活動計画表を作成し、それを基に計画的に活動し休業日を取得できたか。 ②支援・指導のねらいや方針が、課題に対し適切であったか。関係職員が一致した対応を行えたか。					

3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが高い志を持って第一志望を設定し、その進路実現を支える指導と支援の体制を構築し、実践する。	①生徒の第一志望の実現に向け、学年ごとに、時期に合わせた適切な支援が行われるように仕組みを作る。	①職員研修をとoshi、模擬試験等結果データの分析方法や活用方法を研究することで、適切な進路指導を実践するとともに、生徒および保護者に対して、高い目標維持し努力をし続ける意識啓発をおこなう。	①第一志望宣言の進学先に5割以上合格できたか。 ①国公立大学現役合格者数70人以上を達成したか。 ①難関私立大学（早稲田・慶應義塾）現役合格者数40人以上を達成したか。					
4	地域等との協働	①地域から信頼される学校づくりを推進し、生徒が地域で活躍できる環境を整備する。 ②地域や社会のニーズや喫緊の課題に前向きに対応する。	①地域に開かれた学校行事を充実させるとともに、地域行事における生徒の貢献できる活動の機会を創出するなど、協働に努める。 ②地域や社会からの、学校への要請に応じる上での課題について把握を進め、有効な対応を探り実行する。	①地域における生徒の活動の充実を図るために、適切にPTAや地域自治会、近隣小中学校等との情報交換や連携を行う。 ②学校に対するニーズを把握するため、学校関係者や関係組織等との連携をすすめ、効果的な活動を検討して実施する。	①学校関係組織や団体との情報交換や連携を通じて、信頼される学校づくりや地域における生徒の活動の環境を整えることに向けた対応がなされたか。 ②学校関係者や関係組織、外部機関とも連携をとりながら、地域や社会のニーズを把握し対応できたか。					
5	学校管理 学校運営	①教員の働き方改革を推進し、ワークライフバランスの改善による働きやすい職場を目指す。 ②安全安心な学校生活のための教育環境を整備する。	①昨年度に引き続き、業務の精選と担当業務に関する分担の見直しを行っていく。 ②環境美化に対する意識を高め、主体的に清掃活動をするように指導する。美化委員の活動の活性化を図る。 ②老朽化している施設設備の改善や更新にあたり、工事等が安全安心な環境確保の下行われるよう調整する。	①グループ業務等の見直しを継続して行い、適正な分担を図りつつ、スリム化が可能な内容の見極めを行う。 ②美化委員がリーダーシップをとって地域清掃や掃除を指揮し、美しい環境を維持することで、生徒および職員全員の環境美化意識を高める。 ②複数の工事日程について、予定を把握しつつ、教育活動との兼ね合いについて、関係各所と調整を行う。	①業務を整理しつつ、会議資料等の共有や引継ぎ等を経て、負担を減らせていることの実感が持てたか。 ②通常清掃や行事においても、美化委員会を中心とした美化活動の活性化が図れたか。生徒・職員の環境美化意識を高めることができたか。 ②施設設備に関する工事と教育活動について、適切な調整を行うことができたか。					